



環境に配慮した屋内工場で熟練した職人が丁寧に解体作業



伊藤雄一郎社長

酒田市の山形オートリサイクルセンターは自動車リサイクル事業を通して、

再使用・再資源化

れずに最先端の機械・技術を導入することも、「が始まり」という。丁寧な手仕事でリユース、後を継いだ父親の定男

「環境ISO」のISO14001を取得した。

いたん役目を終えた自動車は、部品として購入されて他の車に組み込まれ新たな命を得るほか、

機械を全て外したボディーはプレスされ、再び鉄の材料になる。「車のリサイクル率は90%以

自動車特化のプロ集団

月間350台ほど解体
新たな技術開発も

扱う車は乗用車はもと

よりトラック、バスなどあらゆる車種に及ぶ。大きさも軽から特大サイズまで何でもござれ。主に提携する中古自動車業者や整備板金店などから運び込まれ、周囲に粉じんや騒音が漏れないように配慮した室内工場で、専用の機械と熟練の技を有する職人の手で解体される。その数は月間350台ほどで、「徐々に増え寄せられている。

1955年、「伊藤商会」として酒田市日吉町一丁目に創業。30周年を機に有限会社化しその後、株式会社に移行。十数年前、同市広栄町一丁目の現在地に移転した。資本金1000万円。年商約5億円。従業員24人。

1955年、「伊藤商会」として酒田市日吉町一丁目に創業。30周年を機に有限会社化しその後、株式会社に移行。十数年前、同市広栄町一丁目の現在地に移転した。資本金1000万円。年商約5億円。従業員24人。

上。エンジンオイルなどを含めほとんどを再利用している」と話す。会社を訪ねると「いらっしゃいませ」の元気な声で迎えられる。「あいさつは基本。特に強制していいが、店長が率先して見本を示している」とし、迅速・丁寧な対応もあって顧客の評価が高く、感謝の言葉が数多く寄せられている。

「挑戦と創造」は毎週日曜日付で掲載します。